

「とちぎの器」魅力向上研究会（F 1層）

活動報告書

令和3（2021）年3月

「とちぎの器」魅力向上研究会（F 1層）



まえがき

栃木県の伝統工芸品である陶磁器（以下「とちぎの器」という。）には、益子焼、小砂焼、みかも焼があります。県を代表する陶磁器である益子焼においては、東日本最大の窯業産地として知名度が高く、益子町で年2回開催され益子焼等の陶磁器が販売されている陶器市には年間約60万人の観光客が訪れています。那珂川町の小砂焼、栃木市のみかも焼においても、それぞれ産地の特徴を有した陶磁器が生産されています。これら県内の陶磁器においては、近年の生活様式変化や消費者ニーズの多様化に伴い需要量が年々減少傾向で推移しており、産地の製陶事業者の経営環境は厳しいものとなっています。このため、需要を拡大し陶磁器業界の活性化を図るためには、消費者のニーズの変化への対応に新商品開発が重要となってきています。

県が平成28年度に実施した益子焼等に関するインターネット調査によると、陶磁器の主な購買者である女性における益子焼の知名度は20代が46.6%、30代が50.5%と他の世代の70%以上に比べて低い結果となりました。こうしたことから益子焼等の需要拡大には若い女性のニーズを捉えた商品を開発し、PRしていくことで知名度向上を図り、新たな購買者として取り込んでいくことが必要と考えられます。

そこで、県では産学官等連携による「とちぎの器」魅力向上研究会（F1層）を令和元（2019）年度に設置し、若い女性（F1層：20～34歳の女性）の嗜好を捉えた商品の開発及び県内産地のPRに取り組んできました。

今般、2カ年の活動の一区切りとして、本研究会の活動内容を報告書としてまとめました。本書が今後の県内陶磁器産地におけるF1層をターゲットとした商品開発の御参考になれば幸いです。

最後に、当研究会の活動にあたり、多大なる御協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

## 目次

	ページ
1 研究会の概要	
(1) 研究会の目的	1
(2) 活動状況	2
2 活動内容	
(1) 試作品の製作	3
(2) 試作品 Web 発表会	7
(3) 情報発信	10
(4) まとめ	10
3 謝辞	11
4 構成員	12

## 1 研究会の概要

### (1) 研究会の目的

栃木県の伝統工芸品である陶磁器（益子焼、小砂焼、みかも焼）は、消費者の嗜好の多様化と長引く経済不況による購買意欲の低下などにより、益子焼産地においては最盛期と比べ、製造企業数は2/3に、売り上げは1/4に減少している。＜事業所数：349件(H4)⇒208件(R1) 総販売額：95億円(H10)⇒23億円(R1) 出典：令和元年益子焼統計調査報告書＞

本県陶磁器の中でも益子焼は、知名度が高く産地への来訪者は多いものの、特にF1層（20～34歳の女性）での知名度が低い上、若い女性向けの商品が少ないという課題がある。

そこで、県内の学識経験者、産業界有識者、製陶事業者、デザイン支援者、F1層一般モニターから構成される「とちぎの器」魅力向上研究会（F1層）を設置、開催し、国内の若い女性の嗜好を捉えた商品の開発と県内産地のPRを進め、県内陶磁器の魅力向上と販路拡大を目指すものである。

### (2) 活動状況

ア 令和元(2019)年度第1回研究会（R1.8.9（金））参加者22名

- ・県内外陶磁器産業等の状況及び課題の確認
- ・F1層向け商品開発に向けての意見交換

イ 一般モニター意見聴取会（R1.9.6（金））参加者12名

- ・一般モニターが求める器へのニーズについての意見聴取
- ・器に取り込む魅力及び「とちぎ」から連想する魅力について意見聴取

意見聴取会後、一般モニターの意見に基づき、デザイン支援者がデザイン（スケッチ）を作成

ウ 令和元(2019)年度第2回研究会（R1.9.20（金））参加者22名

- ・作成されたデザイン（いちご、栃木の自然、カクテル、かんばんをモチーフとしたデザイン）とそのコンセプトの確認
- ・栃木の自然や特産物をコンセプトとする考え方の確認
- ・販売時のサイズ感や色、今後の情報発信方法などについて意見聴取
- ・秋の益子陶器市でのデザイン人気投票の実施内容を説明

エ 秋の益子陶器市でのデザイン人気投票及びアンケート（R1.11.1（金）、5（火））

- ・作成されたデザインの人気投票及びアンケートを実施（F1層81名（全回答者149名））

オ 令和元(2019)年度第3回研究会（R1.11.18（月））参加者19名

- ・陶器市での人気投票及びアンケート結果を踏まえ試作する器の決定

試作品はセットとすることを考えて、デザインごとに皿類とカップ類をそれぞれ1つ以上製作することとし、製陶事業者が試作品を製作

- カ 令和元(2019)年度第4回研究会 (R2.2.21 (金)) 参加者 17名
- ・製作された試作品 (いちごデザインのカップ、カクテルデザインの皿及びカップ、栃木の自然デザインのカップ、かんぴょうデザインの皿及びカップ) の発表と意見交換
  - ・試作品の一般モニターによる試用及び春の益子陶器市での人気投票の実施内容を説明
- キ 令和2(2020)年度第1回研究会 (R2.7.20 (月)) 参加者 17名
- ・一般モニターによる試作品試用の結果を踏まえた試作品改良の検討  
試作品改良の検討結果を踏まえ、製陶事業者及び文星芸術大学が試作品改良
  - ・情報発信方法の検討
- ク 令和2(2020)年度第2回研究会 (R2.10.9 (金)) 参加者 21名
- ・改良された試作完成品の発表と意見交換
  - ・試作品の周知方法、展示販売内容の検討
- ケ 試作品 Web 発表会 (R3.2.10 (水) ~R3.2.23(火))
- ・窯業技術支援センターホームページ内での試作品発表及びアンケートの実施  
(F1層回答者 46名、F1層以外の回答者 77名 (全回答者 123名))
- コ 令和2(2020)年度第3回研究会 (R3.3.26 (金)) 参加者 13名
- ・試作品 Web 発表会及びアンケートの報告
  - ・報告書内容の検討

## 2 活動内容

### (1) 試作品の製作

#### ア 試作品製作の概要

一般モニターからF1層の求める器へのニーズ等を聴取し、それを基に試作品のデザインを作成した。F1層の反応を確認してデザインを決定し、試作品を製作した。また、製作した試作品に対して、一般モニターをはじめとする構成員からの意見を聴取し、形状、サイズ、重さ等の改良を行い試作品の完成品とした。

#### イ 試作品のデザイン作成

試作品のデザイン製作にあたり、構成員の一般モニターからF1層の求める器へのニーズ及び「とちぎの器」としてテーマとする“とちぎの魅力”について意見を聴取した。一般モニターから出された主な意見は表1のとおり。ニーズとして出された機能性を盛り込み、“おしゃれなもの”や“かわいいもの”と“県内陶磁器の伝統を感じられるもの”をイメージし、一般モニターがとちぎの魅力から連想した“いちご”、“カクテル”、“栃木の自然（以下、自然と言う。）”及び“かんぴょう”をテーマとしてデザイン支援者が器のデザイン画を作成した。（図1）

作成された上記4系統のテーマを表現するデザインについて、令和元年秋の益子陶器市にて人気投票及びアンケートを実施した。人気投票において、皿類では“自然”をテーマとしたデザイン、カップ類では“いちご”をテーマとしたデザインの人気が高かった。その他のデザインについても、一定の支持を受けた。これら人気投票の結果を基に令和元（2019）年度第3回研究会において、デザインの中から実際に製作する器の種類やサイズ等を決定した。人気投票結果において4系統のデザインそれぞれが一定の評価を受けており、試作品としてのバリエーションを増やすことから4系統すべてのデザインを製作することとした。また、F1層からのニーズとして出された、皿とカップ等のデザインを合わせたセットとして使えるシリーズものとするため、デザインごとにそれぞれ皿類とカップ類を製作することとした。

表1 一般モニターから出されたF1層の求める器へのニーズ及びとちぎの魅力

<p><b>【ニーズ】</b> (デザイン) ・おしゃれなもの ・かわいいもの ・県内陶磁器の伝統を感じられるもの (機能性) ・食洗機対応 ・電子レンジ対応 ・収納性 (その他) ・軽くて丈夫であること ・カップと皿などのシリーズものであること</p>
<p><b>【とちぎの魅力から連想されるもの】</b> ・いちご ・かんぴょう ・カクテル ・豊かな自然 ・日光などの観光地</p>

「とちぎの器」魅力向上研究会(F1層)  
デザインの人気投票及びアンケート

「とちぎの器」魅力向上研究会(F1層)  
デザインの人気投票及びアンケート

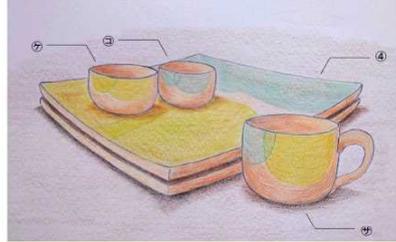
デザインA

【コンセプト】栃木といえば、と聞かれたときにまず間違いなく挙げられる「いちご」。種の凹凸などいちごらしさにこだわり「思わず触りたくなる器」を目指しました。



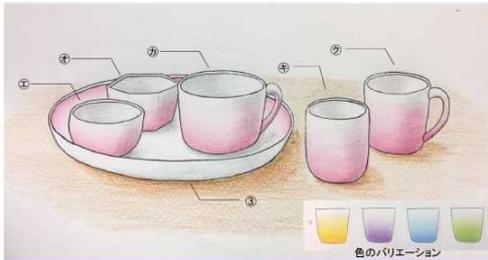
デザインC

【コンセプト】栃木県の豊かな自然を、新たに二色の釉薬を使い、益子焼の伝統技法と人間国宝 濱田庄司の技の一つである「流し掛け」を用いて、伝統を感じさせつつも、明るく優しいデザインにしました。



デザインB

【コンセプト】コンセプトはグラデーションです。栃木の名物の一つであるカクテルの柔らかな色合いをデザインし、おしゃれな女性らしさを感じる益子焼が狙いです。



デザインD

【コンセプト】栃木県の生産量全国1位である「干瓢」を題材にシンプルかつポップにデザインし、栃木県を代表する伝統的な陶磁器「益子焼」で制作することで、新たに「フレッシュな益子焼」をアピールすることが狙いです。

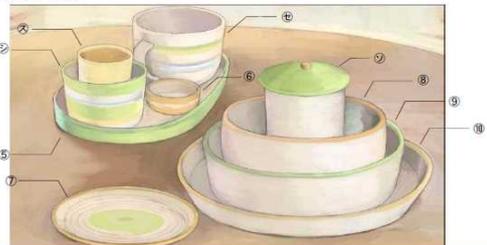


図1 作成したデザイン

テーマ	
デザインA：“いちご”	デザインB：“カクテル”
デザインC：“自然”	デザインD：“かんぴょう”

ウ 試作品の製作

決定したデザインを基に製陶事業者が試作品を製作した（写真1）。製作された試作品を令和元(2019)年度第4回研究会で発表し、構成員から意見を聴取した。構成員からは、試作品のサイズが大きく、重さもあるため、改良すべきとの意見が出された。また、F1層をターゲットとしているのでよりかわいらしさを追及していくことが良いとの意見が出された。

また、研究会終了後には試作品を一般モニターが持ち帰り試用した。試用した一般モニターの感想においても、サイズや重さに関する改善の意見が出された。これらの意見を踏まえて試作品改良の検討を行った。

その結果、“カクテル”をテーマとしたデザインの器は、製作に手間がかかり量産が難しいことが予想されるため、試作品の改良を実施せず完成品とはしないこととした。その他のデザインについては、サイズ、原材料、製作方法を見直すこととした。“いちご”をテーマとしたデザインの器においては、カップのサイズを小さくし、口径18cm程度及び口径12cm程度の皿を製作することとした。“自然”及び“かんぴょう”をテーマとしたデザイ

ンにおいては、サイズを見直すとともに軽くて丈夫な器の実現のために、新たな粘土の配合を試みることにした。具体的には、益子水簸土に磁器土を配合することで、強度の向上を図った。試作品の製作に先立ち実施したテストピースによる曲げ強度のテストでは、益子水簸土に比較して、磁器土を約 50% 配合した粘土では、曲げ強度の約 3 割の向上が認められた。この粘土を用い、製陶事業者及び文星芸術大学により試作品の改良を実施した。

製作された試作改良品を令和 2 (2020) 年度第 2 回研究会で発表し、これらを本研究会の試作品 (完成品) とすることとした。 (“いちご” をテーマとした試作品 (写真 2)、 “自然” をテーマとした試作品 (写真 3)、 “かんぴょう” をテーマとした試作品 (写真 4))

<p>“いちご”</p> 	<p>“自然”</p> 
<p>【サイズの例】 カップ : 10cm×9.5cm、290g</p>	<p>【サイズの例】 カップ : 13cm×10cm、500g</p>
<p>“カクテル”</p> 	<p>“かんぴょう”</p> 
<p>【サイズの例】 カップ : 8.5cm×9.5cm、300g 皿 : 26.5cm×3.5cm、1000g</p>	<p>【サイズの例】 カップ : 13cm×11cm、590g 皿 (大) : 22.5cm×1.5cm、570g 皿 (小) : 15.5cm×1.5cm、280g</p>

写真 1 製作した試作品



【サイズの例】

カップ(大) : 11cm×7.5cm、250g    カップ(小) : 7cm×5cm、100g  
 皿(大) : 18cm×2.5cm、370g    皿(小) : 11.5cm×1.5cm、110g

粘土 : 磁器土    釉薬 : 石灰透明3号釉

写真2 “いちご” をテーマとした試作品 (完成品)



【サイズの例】

カップ : 8.5cm×9cm、230g  
 皿(大) : 24cm×24cm×2cm、560g    皿(小) : 15cm×15cm×2cm、240g

粘土 : 益子水簸土+磁器土    釉薬 : 並白釉、飴釉、糠青磁釉

写真3 “自然” をテーマとした試作品 (完成品)



【サイズの例】

カップ：9.5cm×8.5cm、210g

皿(特大)：27cm×3.5cm、660g      皿(大)：24cm×3.5cm、620g

皿(中)：20cm×3cm、420g      皿(小)：16cm×3cm、280g

蓋物：11cm×12cm、600g      小鉢：14cm×4cm、210g

粘土：益子水簸土+磁器土      釉薬：並白釉、顔料

写真4 “かんびょう”をテーマとした試作品（完成品）

(2) 試作品 Web 発表会

市場の反応リサーチのため、当初、研究会で製作した試作品の発表及び県内陶磁器製造事業者から募集した商品の展示販売会を予定していたが、コロナウイルス感染拡大の状況から中止し、窯業技術支援センターホームページ内において試作品の Web 発表会を開催した。併せてアンケートを実施し、F1 層 46 名、F1 層以外 77 名の計 123 名から回答を得た。（開催期間：令和 3 (2021) 年 2 月 10 日（水）から 2 月 23 日（火））

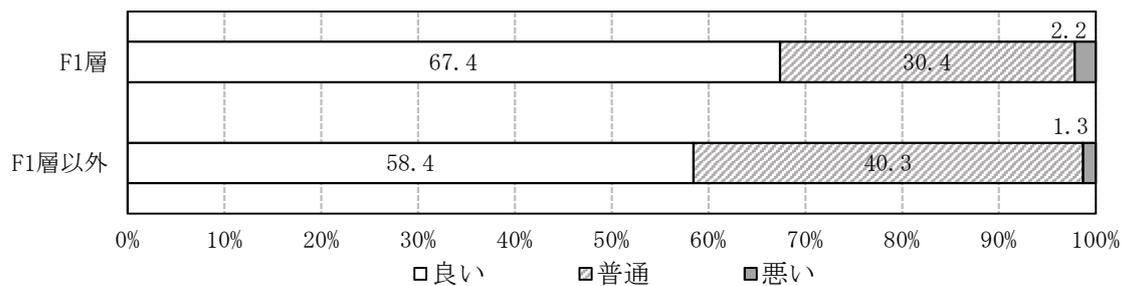
アンケート結果において、“いちご”“自然”及び“かんびょう”をテーマとした試作品に対する印象（図 2）は、それぞれ F1 層、F1 層以外ともに半数以上が良いと回答であり、良いと回答した割合は、F1 層、F1 層以外ともに“いちご”“かんびょう”“自然”の順に高く、また、F1 層の方が F1 層以外よりも高い傾向が見られた。試作品ごとの感想（図 3）において、“いちご”をテーマとした試作品では「かわいい」87.0%、「『とちぎ』らしさを感じる」39.1%であることから、これらが良い印象に繋がったと考えられる。“自然”をテーマとした試作品の感想では、39.1%が「デザインがよい」、30.4%が「伝統を感じる」と回答している一方で、17.4%が「デザインがよくない」、15.2%が「古くさい」と回答していることから好き嫌いが分かれるが、F1 層の約 5 割が良い印象と回答していることから F1 層向けの商品として有効と考えられる。“かんびょう”をテーマとした試作品の感想では「デザインがよい」47.8%であり、シンプルなデザインで使いやすさを意識した試作品としたことが評価されたと考えられる。

それぞれの試作品のカップと皿をセットとしたときの販売価格についてのアンケート結果（図4）では、F1層、F1層以外ともに各テーマ6割以上が2,000円未満と回答しており、“自然”及び“かんぴょう”をテーマとした試作品ではF1層はF1層以外と比較して低価格の回答が多くなる傾向が見られた。また、陶磁器の購入に際して重視することについて、F1層、F1層以外ともに半数以上がデザイン・見た目、使いやすさ、価格を選択している。F1層ではF1層以外と比較してデザイン・見た目、価格、重さ、電子レンジ対応を重視する回答割合が高かった（図5）。

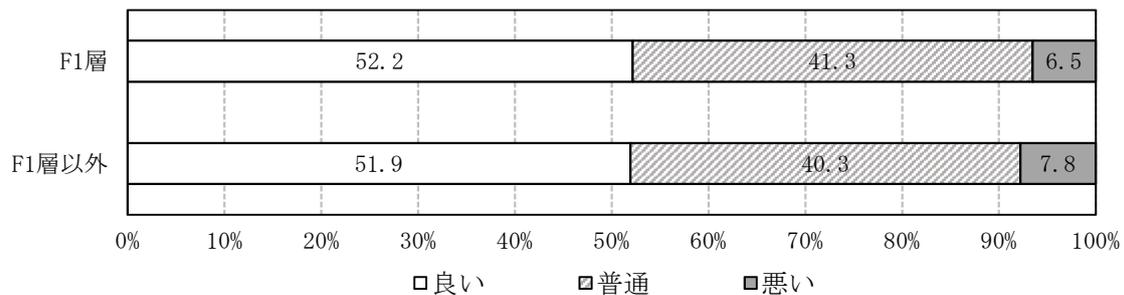
これらのことから、F1層向けの商品においては、デザイン・見た目に加え、軽くて使いやすく、電子レンジ対応などの機能性を満足し、低価格であることが求められていることが改めて確認された。

図2 試作品の印象について（回答者数：F1層46名、F1層以外77名）

“いちご”をテーマとした試作品



“自然”をテーマとした試作品



“かんぴょう”をテーマとした試作品

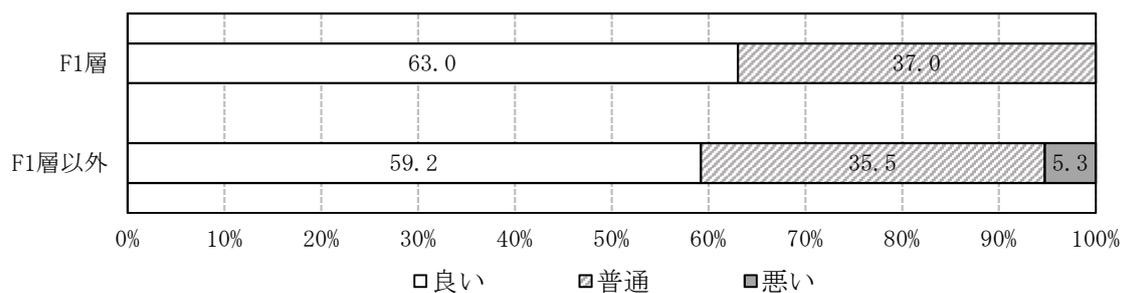


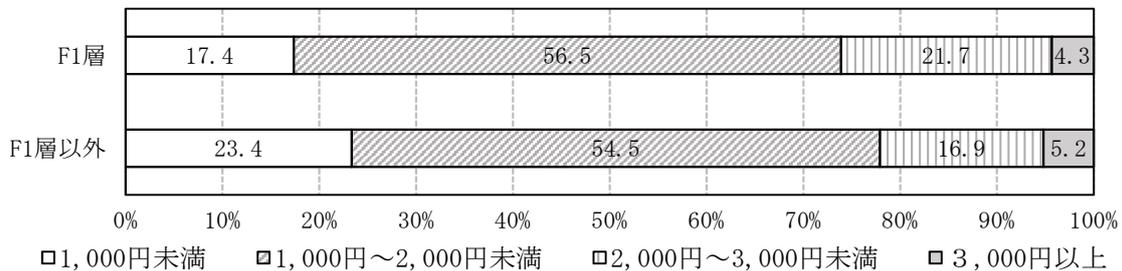
図3 試作品の感想について (F1層)

(%)

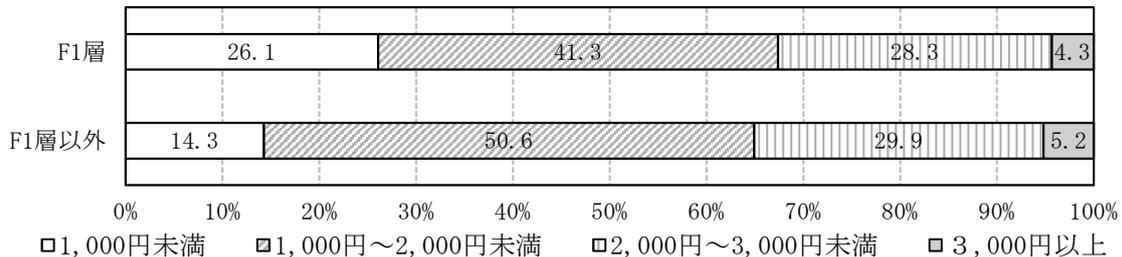
	“いちご”をテーマとした試作品	“自然”をテーマとした試作品	“かんぴょう”をテーマとした試作品
デザインがよい	39.1	39.1	47.8
デザインがよくない	4.3	17.4	4.3
かわいい	87.0	8.7	19.6
シンプル	39.1	39.1	82.6
新しさを感じる	19.6	10.9	4.3
伝統を感じる	0.0	30.4	19.6
古くさい	0.0	15.2	4.3
ありきたり	6.5	13.0	4.3
「とちぎ」らしさを感じる	39.1	10.9	26.1
使いにくそう	6.5	8.7	0.0
その他	4.3	8.7	8.7

図4 試作品の販売価格について (回答者数: F1層 46名、F1層以外 77名)

“いちご”をテーマとした試作品



“自然”をテーマとした試作品



“かんぴょう”をテーマとした試作品

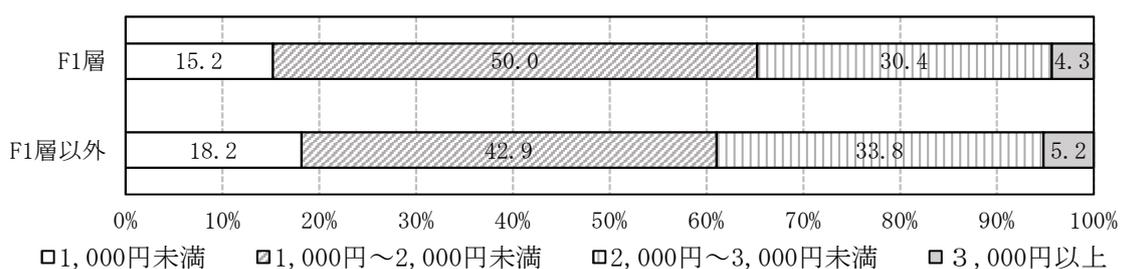


図5 陶磁器の購入について重視すること（回答者数：F1層46名、F1層以外77名）  
（%）

	F1層	F1層以外
デザイン・見た目	95.7	88.3
使いやすさ	71.7	85.7
価格	76.1	59.7
重さ	41.3	35.1
洗いやすさ	28.3	31.2
収納性	10.9	15.6
電子レンジ対応	56.5	42.9
食洗機対応	19.6	19.5
ブランド	0.0	5.2
その他	2.2	2.6

### （3）情報発信

研究会の活動内容と成果に関する情報を発信し、県内陶磁器への興味・関心の醸成と、その魅力を訴求していくことで、若年層における認知度向上を図るため、「とちぎの器」研究会インスタグラムを開設し、試作品や試作過程などについて投稿を行った。また、県内産地への情報提供として、窯業技術支援センターホームページ内に「とちぎの器」魅力向上事業の特設ページを作成、公開した。

### （4）まとめ

本研究会では、県の伝統工芸品である陶磁器（益子焼、小砂焼、みかも焼）のF1層（20～34歳の女性）における知名度向上を図るため、F1層の嗜好を捉えた商品の開発及び県内産地のPRに取り組んできた。

研究会活動では、F1層の器へのニーズを調査し、それを基に試作品を製作し、アンケートや一般モニターによる試用の結果を踏まえ、改良を実施し試作品を完成させた。当初の計画では、研究会で製作した試作品の展示及び県内陶磁器製造事業者が製作した研究会のテーマに沿った商品の展示販売会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況から中止した。このため、完成させた試作品をWeb発表しアンケートを実施し、F1層に対する反応をリサーチした。

本研究会の活動の成果を今後の産地におけるF1層をターゲットとした商品開発の参考としていただければ幸いである。

### 3 謝辞

益子焼協同組合には、当研究会構成員（製陶事業者）の推薦及び組合員への当研究会の活動内容の周知等に御協力いただきました。また、益子町観光協会には、陶器市でのアンケート実施及び活動内容の周知に御協力をいただきました。本研究会活動に御協力くださいました関係各位に深く感謝いたします。

#### 4 構成員

No.	選任分野		氏名	所属・役職等
1	学識経験者	1	迎 泰夫	【委員長】 文星芸術大学・准教授
2	産業界有識者	1	大塚 和美	(株)もえぎ・代表取締役
3		2	今田 功	(有)オフィスイマダ・代表取締役
4		3	越石 直子	【副委員長】 (株)bis・代表取締役 (とちぎ未来大使)
5		4	永見 正明	(株)永見商店・代表取締役
6		5	井上 咲楽	(株)ホリプロ (とちぎ未来大使)
7	製陶事業者	1	薄田 いと	薄田窯
8		2	大塚 菜緒子	健一窯
9		3	榎田 若葉	えのきだ窯
10	デザイン支援者	1	荒川 真帆	文星芸術大学 デザイン専攻 工芸分野陶芸研究室
11		2	築嶋 春奈	文星芸術大学 デザイン専攻 工芸分野陶芸研究室
12		3	大塚 隆平	文星芸術大学 デザイン専攻 工芸分野陶芸研究室
13		4	佐藤 春日	文星芸術大学 デザイン専攻 工芸分野陶芸研究室 OG
14	一般モニター	1	大石 詠子	
15		2	亀田 和香	
16		3	小菅 友香	
17		4	瀧川 倫子	
18		5	竹澤 なつみ	
19		6	鳴海 鈴子	
20		7	八木 有佳里	
21	事務局	1	大歳 進	窯業技術支援センター センター長
22		2	大和 弘之	窯業技術支援センター 主任研究員
23		3	山ノ井 翼	窯業技術支援センター 主任研究員
24		4	磯部 大我	窯業技術支援センター 主任研究員
25		5	塚本 準一	窯業技術支援センター 主任研究員
26		6	加藤 和久	工業振興課 地域産業担当 副主幹(GL)
27		7	古川 裕朗	工業振興課 地域産業担当 主事

(敬称略)



「とちぎの器」魅力向上研究会（F 1層）事務局

栃木県産業技術センター窯業技術支援センター

〒321-4217 栃木県芳賀郡益子町益子 695

TEL 0285-72-5221 FAX 0285-72-7590

<https://iri.pref.tochigi.lg.jp/index.php?id=122>